

報道されない「口蹄疫がEMで解決された事実①」

連日連夜、大騒動で報道されていた口蹄疫がある日から突然パタッと報道されなくなりました。もちろん解決されたからですが、何故急に解決されたかは全く報道されませんでした。その真相をお伝えします。

緊急事態

口蹄疫が確認されました
世間は騒然となりました

宮崎県で2010年4月20日

報道はされませんでした
宮崎県の口蹄疫感染が深刻化している時にEMが大量に活用されました
EMは、口蹄疫の終息に大きな力となったのです

口蹄疫とは、口蹄ウィルスにより、牛、豚等の偶蹄類が感染する伝染病です

感染力・伝播力が強く、有効な治療法がないこと等から家畜の感染症では、最も警戒する伝染病の一つとされています

口蹄疫に水泡ができる

近くにいる家畜にも感染力が強い

日本でも、「家畜伝染病予防法」で、法定伝染病に指定され

宮崎県で殺処分された家畜は約29万頭です
未曽有の被害をもたらしました

患者、疑似患者は、全て殺処分が義務づけられています

大量に埋却処分された現場で悪臭やハエガスの発生を抑え、埋却の方法を効率化して行い、

懸念されていた二次感染の発生を全く起こさず、

EMの活用すばやい対応

感染至近距離に沢山の家畜農家があるえびの市でEMの結果により感染拡大を止め

報道はされませんでした
宮崎県の口蹄疫感染が深刻化している時にEMが大量に活用されました
EMは、口蹄疫の終息に大きな力となったのです

口蹄疫が飛び火した様々な場所ですばやくEMのポランティアが対応、EMを活用して短期間で口蹄疫を終息させました

5月13日までに4ヶ所広がり牛352頭、豚320頭が感染
発生確認地点から3km以内に150軒の畜産農家があり畜舎と畜舎の距離は大半が1km内外で、畜産農家が密集しており、パニック状態でした

4月28日 えびの市で口蹄疫感染が確認されました

口蹄疫のEM活用は、最初にえびの市で行われました
どのようにEMは使われたのでしょうか

5月15日 比嘉先生はEM関係者から電話連絡を受けて対応しました

EM開発者 比嘉先生

安心して取り回すことができました

EMを使っている農家は絶対大丈夫、一軒でも多くEMを使うようにすすめてください
そうすればEMによる感染防止帯ができるので、拡大を防げます

比嘉先生は、口蹄疫対策本部長 山田正彦農水副大臣(当時)にも電話で伝えました

比嘉先生は、これ以上感染が広がることなく絶対大丈夫です

危機的状況の中、そう伝えました

比嘉先生には、感染拡大はしないという確信があったのです

なぜなら、EMは結界(※)を作る作用があるからです

比嘉先生は、電話でえびの市の畜産農家のEM活用件数と各々の分布状況を確認し、えびの市にEMによる結果ができていると感知し、「大丈夫」と結論を出したのです

安全

有害物が入れない

例えば、畑の4隅に、EMセラミックス、EM1号の活性液を、ペットボトルに入れてつり下げておくとカラスはこなくなります

作物は安定

入れない!

先生のお言葉通り、えびの市はその後感染が拡大せず別途対応ということになり一足先に清浄化宣言がなされました

よかった

畜産農家

EMポランティア

ここで活用されたEMの対応方法を「えびの方式」と名付けました

5月25日 比嘉先生は対策本部長に提案をします

比嘉先生の言われていることは十分理解できますが、役所の方針と予算はすでに決まっていますので、ポランティアで協力いただけるのであればお願いいたします

大量に埋却した場合の2次汚染対策や感染拡大防止策、埋却法の簡略化についてEM活用をおすすめします

比嘉先生

比嘉先生は、電話でえびの市の畜産農家のEM活用件数と各々の分布状況を確認し、えびの市にEMによる結果ができていると感知し、「大丈夫」と結論を出したのです

口蹄疫対策本部長 山田正彦 当時農水副大臣

先生のお言葉通り、えびの市はその後感染が拡大せず別途対応ということになり一足先に清浄化宣言がなされました

よかった

畜産農家

EMポランティア

5月25日 比嘉先生は対策本部長に提案をします

※ 結界・・・聖なるものを守るためのバリア(防護帯)をつくることを意味する言葉で、宗教的には様々な方法が行われています。